

Ⅲ 審査概要

| 第1回審査委員会

- ・デザイン競技の審査を行うに当たっての「審査委員会設置要綱(案)」の確認、応募者からの質疑に対する回答(案)の確認、および審査・技術調査の進め方の確認を行った。

| 応募登録受付（事務局）

- ・応募者が提出した「応募資格確認申請書」に基づき、募集要項に示された資格要件を満たしているかを確認した。

| 応募作品受付（事務局）

- ・応募者が提出した作品について、応募期間内の提出であったか、また募集要項で求められている図書等に不足がないかを確認した。

| 技術調査

- 日時：9月26日（水）～10月8日（月）
- 会場：ベルサール渋谷ガーデン1Fホール

- ・応募作品について、作品の実現性、および募集要項に規定した与条件や法令等への充足状況など技術的な評価を行った。
- ・技術調査において確認した項目と観点は以下のとおりである。

【技術調査における確認事項】

- 1) 「テーマ別の計画提案」に示した項目のうち、技術的な確認が必要な事項
 - ①「臨場感あふれる観覧席に関する考え方」のうち、可動席に関すること
 - ②「観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方」のうち、アクセスおよび入退場に関すること
 - ③「ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアム利活用に関する考え方」のうち、音響環境に関すること
 - ④「環境配慮に関する考え方（省エネルギー、エネルギー多重化及び緑化等）」のうち、省エネ技術に関すること
 - ⑤「構造計画、屋根の架構及び開閉機構に関する考え方」のうち、屋根の開閉機構に関すること
 - ⑥「事業費及び工期に関する考え方」のうち、工期に関すること
- 2) 募集要項の「デザイン提案条件」に記載されている事項
 - ①施設建築物の配置及び高さ
 - ②土地利用構成
 - ③施設構成
 - ④スタジアムへのアクセス
 - ⑤公園の再配置及び公開空地の確保
 - ⑥緑化・環境配慮・防災対策

- ・これらの事項について、各分野の専門性を有する技術調査員および支援チームが確認し、【○：実現可能】【△：設計段階で重大な調整が必要】【×：明らかに実現不可能】の3段階で評価した。
- ・技術調査員による評価を、専門アドバイザーを含め開催された技術調査会議において確認し、【×：明らかに実現不可能】と判断された項目については、技術調査員全体で協議し、評価を決定した。また、【△：重大な調整が必要】と判断された項目についても、複数の観点からの検討が必要とされる項目については、技術調査会議で協議のうえ決定した。

| 技術調査会議（平成 24 年 10 月 8 日）



各作品の評価を確認



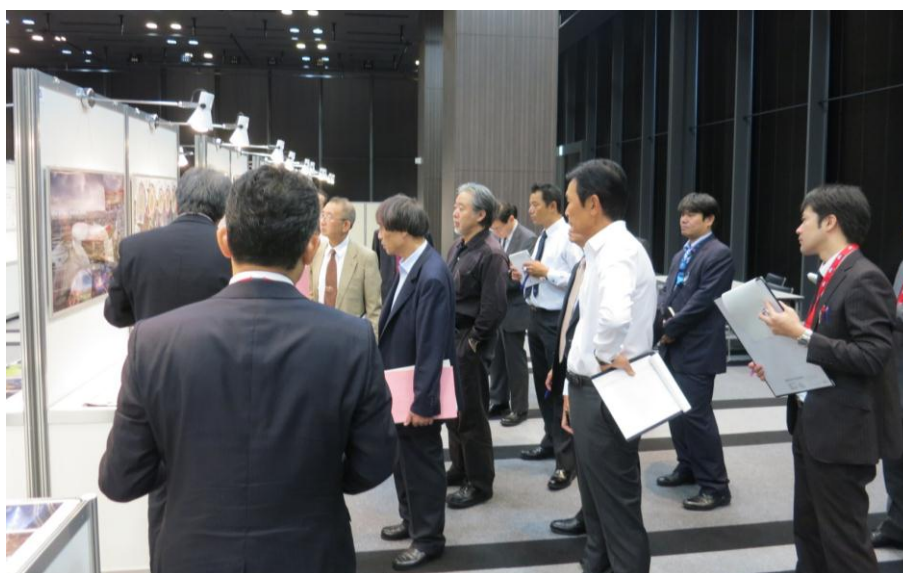
審議を要する箇所を議論

| 予備審査

- 日時：9月26日（水）～10月12日（金）
- 会場：バルサール渋谷ガーデン 1F ホール

- ・一次審査では、数多い応募作品の審査をスムーズに行うため、審査委員会の開催に先駆けて、応募者の匿名性を確保したうえで、日本人審査委員による個別の予備審査を実施した。この事前の審査において、審査委員は「仮推薦作品」を作品数は制限せず、選定した。

| 予備審査（平成24年10月12日）



審査委員が作品を見て回る



第2回審査委員会／一次審査

- 日時：10月16日（火）
- 会場：ベルサール秋葉原地階ホール

- ・各審査委員による仮推薦作品と技術調査会議の結果より、審査委員会において二次審査に進む作品を選定する。
 - ・予備審査において、推薦のなかった作品または1票しか推薦を受けていない作品については、予備審査の段階で提案内容を確認していることから、一次審査で新たに確認することはせず、審議の対象とはしないこととした。
 - ・得票が過半数を集めた作品については、技術調査の結果において明らかに実現不可能と評価された項目がないことを確認し、二次審査の対象作品として選定することとした。作品番号2、作品番号12、作品番号17、作品番号24、作品番号34、作品番号37が過半数以上の票を集め、まずこれら6作品を二次審査の対象作品とした。
 - ・2票から4票の複数票を獲得した残り15作品について、技術調査の結果を踏まえたうえで審議を行った。
 - ・委員長より、デザイン競技の趣旨から、この段階では実現性に多少の難しさはあってもユニークな挑戦的な作品を残しても良いのではないかとの意見もあり、特徴あるシンボリックな作品を選定することとした。また、利活用の観点からも、文化的利用の面での音響効果の提案が優れた作品、スポーツ利用の面での観覧席に関する考え方が優れた作品をそれぞれ選定した。その結果、作品番号9、作品番号26、作品番号32、作品番号33、作品番号35が二次審査の対象作品に選ばれた。
 - ・最後に、二次審査対象作品に対して、敷地条件等において課題がある部分の取扱いについては、事務局より応募者に確認することとし、詳細は事務局と審査委員長に一任することと了承された。また、応募者の資格要件等についても事務局で再確認することとし、一次審査は終了。
- ・以上より、二次審査対象作品として選定されたのは以下の11作品である。

[二次審査対象作品]

作品番号2	Cox Architecture
作品番号9	POPULOUS
作品番号12	UNStudio/Yamashita Sekkei Inc.
作品番号17	Zaha Hadid Architects
作品番号24	TABANLIOĞLU Architects Consultancy Limited Company
作品番号26	DORELL, GHOTMEH, TANE / ARCHITECTS & A+ARCHITECTURE
作品番号32	株式会社梓設計
作品番号33	伊東豊雄建築設計事務所
作品番号34	有限会社SANAA事務所 + 株式会社 日建設計
作品番号35	gmp・International GmbH
作品番号37	株式会社環境デザイン研究所

| 一次審査 (平成 24 年 10 月 16 日)



審査会場



二次審査に進む作品を審議



応募作品を確認しながら議論



応募作品を確認しながら議論



応募作品を確認しながら議論



応募作品を確認しながら議論

| 第3回審査委員会／二次審査

- 日時：11月7日（水）
- 会場：TEPIA 4階 TEPIA ホール

- ・二次審査では、一次審査で選定された11作品の中から、審査委員会の実施に先駆けて、各審査委員が1位から3位までの順位付けを行い、各作品について以下の観点に沿って評価とコメントを行った。そして、その評価結果をもって第3回審査委員会が開催された。
- ・また、外国人審査委員2名については、事務局が各審査委員の設計事務所に二次審査対象となった11作品のパネルを持参し、同様に1位から3位までの順位付けおよびコメントをいただいた。

【審査の観点】

- ①未来を示すデザイン
- ②スポーツ・イベントの際の実現性
- ③技術的チャレンジ
- ④実現性
- ⑤その他、評価すべきポイント

- ・各審査委員の順位付けと評価結果より、審査委員会において最優秀賞1点、優秀賞1点、入選1点をそれぞれ選定した。
- ・まず、事務局より一次審査の最後に確認事項とされた敷地の使い方等について、応募者に確認がとれた旨が報告された。続いて、事務局より外国人審査委員2名の1～3位の順位付けと意見を紹介し、次に各審査委員より各々の順位付けと意見を発表した。
- ・各審査委員による評価から1位評価の多かった上位3作品である、作品番号2、作品番号17、作品番号34を入賞作品とすることとし、この中で順位を付けることを確認した。
- ・この段階では突出した評価を得た作品はなかったため、順位付けはそれぞれの作品について意見交換を行ったうえで再投票をすることとした。なお、再投票後の結果に際しても、外国人審査委員の事前評価の結果を考慮することとした。
- ・審議では、敷地の使い方や構造、音響や可動席、芝生の育成、そしてデザインの普遍性や実現性などが幅広く議論された。

[審査委員長]

- ・日本と、日本が世界に発信する力というイメージを皆さんと議論して決めたい。
- ・もう一度、技術的な問題、経済的な問題、スケジュールの問題、そして最も重要な創造力の問題とまちとどのように関わるかという問題について協議したい。
- ・技術的な問題と機能的な問題に加えて、高さの問題、景観の問題もしっかり考えなければならない。どの案としても、提案者と相当の議論が必要である。
- ・発表のときには、審査委員会としての意見をしっかりとまとめておかなければならない。今まで長い間審議をしてきたわけで、このチーム全員での意見として集約する必要があると思っている。

- ・ここで、これまでの議論を受けて再投票を実施し、休憩を挟んで、再度各審査委員より3作品についての順位付けと意見を発表した。
- ・各作品に対して審査委員より様々な意見が出された。主な意見は次の通り。

[作品全体]

- 明治神宮の歴史を見ると、内苑は伝統様式でつくる。一方、外苑はヨーロッパ的な、外から来たものを積極的に取り入れている。ある種の異物、近未来的なものがあってもおかしくないという観点で評価した。
- 一番重要なのは、競技者の気持ちが集中できるか、観客が集中して見られるかが重要である。

[作品番号2]

- 最も完成度が高く、変更が生じてもコンセプトが大きく崩れない提案である。オリジナリティという面については、もう少し工夫が必要である。
- ナショナルスタジアムとしての品格と、イベントを行うフレキシビリティがある。完成度が高く、技術的にもギャランティーできる。
- スケルトンな雰囲気、ランドマーク的建物になる。フィールドが昇降型になっているなど、使い勝手やデザインも含めて臨場感あるスタジアムが実現できる。
- ジオデシクな構造イメージで、美しい形である。
- オリジナリティには欠けるが、シンプルで建設しやすい。周辺環境を含めた提案にはなっていない。構造は合理的でないように見えるが、実現可能性は高い。
- まとまっているが、神宮外苑にこの形が置かれるのがよいか疑問が残る。
- モニュメント性に欠ける。

[作品番号17]

- デザインの斬新さ、未来志向、世界に対する情報発信、日本の実力を見せる技術的部分から見ても抜きん出ている。
- 強烈でユニークなデザインであり、オリンピックスタジアムにふさわしい。プロムナードが祝祭の雰囲気をもたらす。
- 技術的に解決あるいは調整しなければならない箇所はあるが、チャレンジするに値する造形で、オリンピックに必要なインパクトがある。
- メッセージ性と日本の技術、チャレンジ精神を世界に発信できる。芝生の問題、高さの問題もある。
- 日本の現状から見て、少しチャレンジブルなものがあってもおかしくない。技術的には可能だろうが、コストがかかることが懸念される。
- エレベーターパス（2・3階）に上がるエントランスの修正が条件となる。加えて、施設面の提案も不十分で補強が必要である。
- ダイナミックで面白いが、内部空間の性格と外形が繋がらない。天井面が強烈で、競技者にとってどうか懸念される。
- 線路を越える部分を変更すると、デザインイメージが大きく替わってしまうことが懸念される。下部構造について提案がなく、今後検討すべきことが多い。

[作品番号34]

- 競技やイベントに対する求心性が確保されており、外観も存在感がある。音響処理上も優れている。
- よく調査されており、周辺環境とも調和している。開口部や芝生などイベントとスポーツの両立を最もよく工夫している。
- 都市との一体感が感じられる。
- 自然との親和性に近いイメージで、成熟国家の競技場として共感できる。細かい部分が不明で、もう少し具体の提案が欲しかった。本当に実現可能か懸念が残る。
- うねるようなカーブでまとめている、現代的な表現である。ひだとひだの間の処理ができるかどうか懸念される。
- アイデアは良いが、3次曲面の処理の仕方が不明で、メンテナンス等の課題をクリアできるか懸念される。
- 波型の屋根のコントロールや管理が難しいことが懸念される。

- ・しかし、再投票でも評価が分かれたため、「日本が世界に発信する力」という観点からも再度議論を行い、実現性を含め、強いメッセージ性と日本の技術を世界に示すことのできる最も優れた作品として作品番号17番を最優秀賞に選出した。残り2作品についても、上記の観点を踏まえて、委員会の総意として作品番号2番を優秀賞、作品番号34番を入選作品に決定した。

[審査委員長]

- ・日本の閉塞的な状況を打ち破る意味でも、ワールドカップやオリンピック、そして壮大なスケールのエンターテインメントができることを期待している。
- ・この提案には課題がまだまだたくさんあるので、設計者と話し合いながら進めていく必要がある。
- ・また、敷地についても、東京都と周辺の敷地の関係がスムーズに出来ないとして2019年の完成が難しいので、国と都、そして審査委員会に携わった先生方が関わっていく体制が必要である。今後も進行状況に応じ、自由に、忌憚なく意見を言っていけるチームをつくっていただきたい。
- ・最優秀案は相当な技術力が必要である。これが日本でできるとなれば、世界へのインパクトがある。材料、工法、構造技術、設備技術について、日本の優秀さを世界にアピールできて、世界中の人達から注目を集めることができたら素晴らしい。

- ・外国人審査委員2名には、委員長より国際電話にて最優秀賞、優秀賞、入選の選定過程および結果を報告し、了承を得た。
- ・以上より、最優秀賞をZaha Hadid Architects、優秀賞をCox Architecture、入選をSANAA(Sejima and Nishizawa and Associates)+ Nikken Sekkei として有識者会議に報告することで決定した。

| 外国人審査委員による審査



リチャード・ロジャース委員



リチャード・ロジャース委員



ノーマン・フォスター委員



ノーマン・フォスター委員

| 二次審査（平成24年11月7日）



審査会場



安藤委員長、鈴木委員



都倉委員、岸井委員



内藤委員、安岡委員



河野委員、小倉委員



入賞3作品が決定